

「新嘗祭」(にいなめさい、しんじょうさい)を知っていますか？



皆さんは「新嘗祭」を知っていますか？古くからおこなわれてきた宮中行事で、その年の五穀豊穰を祝い、神々に感謝の気持ちを示す「収穫祭」です。宮中と全国の神社で毎年11月23日の夜と24日の朝に行われます。戦前は祭日でしたが、戦後に「勤労感謝の日」となりました。起源は、稲作が始まった弥生時代にまで遡ると考えられており、日本書紀の神代や仁徳天皇の時代にも「新嘗」という言葉が出てくるほど歴史があります。

新嘗祭では、天皇陛下が神嘉殿(しんかでん)において新穀を皇祖はじめ神々にお供えになって、神恩を感謝された後、陛下自らも食事をお召し上がりになる祭典です。宮中恒例祭典の中の最も重要なもののひとつとされています。天皇陛下自らご栽培になった新穀もお供えになります。神様と食事とともにされるのは、天皇陛下だけができることで、新穀で神様をもてなすと同時に、天皇陛下自らも新穀を食すことによって新たな力を得、次の年の豊穰を約束する行事が新嘗祭です。

以前は、この新嘗祭まで新米は食べてはいけない、と考える方も多かったようです。9月ごろ稲刈りを始めて、実際食べられるようになるまでは2か月程度かかっていたため、それが一般的であったのでしょうか。また、天皇陛下が新米をお召し上がりになるのを待ってからという考えもあったようです。

今年は猛暑の影響もあり、米の出来にも影響があったと聞きますが、やはり新米は特別なおいしさがあります。米は比較的長期間保存できるので、普段はあまり気にしませんが、野菜などと同じ生鮮食品です。精米したあとのお米は、空気に触れると酸化が進み、味が悪くなります。また、次第に水分が少なくなり、ぱさぱさした食感になります。これに比べて新米は、新鮮で水分量が比較的多いのでおいしいと感じるのです。また新鮮なので、つや、風味、ねばり、香りがよいこともおいしさの理由です。

今年も大地の恵みに感謝し、しっかり食べて風邪などに負けない身体を作りましょう。

